

広島で平和を想う

広島平和記念式典へ市内中学生の代表を派遣

問い合わせ 学校教育課教育総務室 ☎72-6882

記事ID 0045318



▲市長へ広島訪問への抱負を話しました



▲原爆ドームを背に撮影



▲「原爆の子の像」に千羽鶴を奉納

市では、平和学習事業の一環として、市内中学生の代表を広島平和記念式典へ派遣しています。令和2年度および3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により出席者が制限されたため派遣できず、今年度は3年ぶりの派遣となりました。

この派遣事業は、村上市の将来を担う若い人たちに戦争の悲惨さや平和の尊さを考え、理解を深めてもらうことを目的に行っているものです。

今年度は、6人の中学生が8月5日に広島市を訪問し、平和記念公園にある「原爆の子の像」に、市内の中学生が思いを込めて折った千羽鶴を奉納。市の代表として戦争で亡くなられた子どもたちの冥福を祈りました。その後、原爆ドームや平和記念資料館を見学し、被爆の実相を知ると共に、争いのない平和な世界の大切さを考えることができました。

翌6日に参加した平和記念式典には、グテーレス国連事務総長を始め、世界99か国の代表のほか被爆者や遺族らおよそ3000人が参列。原爆が投下された午前8時15分には「平和の鐘」が鳴り響く中、参列者全員で黙とうを捧げ、原爆の被害に遭われた方々の冥福と世界の恒久平和の実現を祈りました。



「広島の人たちの思い」

山北中学校
いたがきしよ
板垣成さん

広島に行き、戦争や原爆の恐ろしさを学ぶことができました。原爆ドームを見たときは、まるで77年前にタイムスリップしたかのように思えました。当時のまま残されている原爆ドームから広島市民の世界に伝えたいという強い気持ちが伝わってきました。平和記念資料館では、亡くなった方々の写真や服などが展示されていました。添えられた説明を読むと、原爆の恐ろしさが伝わってきました。

この経験を、行くことができなかった山北中学校の生徒にしっかりと伝えたいです。



「戦争の悲惨さ」

朝日中学校
あさひはるた
鈴木晴太さん

広島に行き、平和記念資料館を見ました。戦争の恐ろしさや悲惨さなどを知ることができました。当時の資料を見ると、今の社会はとても平和だと思いました。このような平和な暮らしができていることに感謝の気持ちで一杯です。これは、広島平和祈念式典をはじめ、戦争を繰り返さないようにいろいろな取り組みをしてきたからなのだと思います。

僕は完全に戦争をなくせるように色々な取り組みをしたいと思っています。



「戦争の事実」

神林中学校
おのましろ
小野真白さん

恐怖、悲しさ、悔しさ・・・戦争の悲惨さを深く学び、色々な感情がこみ上げてきました。戦争とは、どんなに恐ろしいもので、どれだけの人を苦しめたのか。今まではなんとなくでしか知らなかったことが、はっきりとした事実となって私の中に残りました。

広島で学んできたことをたくさんの人に伝え、一人でも多くの人に戦争の怖さや無意味さを知ってもらい、平和とはなにか考えるきっかけになってもらえたらいいなと思います。

平和な世の中をつくっていくために。



「広島で学んだこと、感じたこと」

岩船中学校
くまぐらすばる
熊倉素晴さん

私は広島に行ったことも、戦争を体験した人から話を聞いたこともなかったため、事前に戦争のことや原爆のことを調べていました。しかし、平和記念資料館での実際の展示は、動画で見たものと違い、被爆者の苦しみや核の恐ろしさがよく伝わってくるものでした。

核兵器は人類をも滅ぼしてしまう兵器です。世界で唯一核兵器の怖さを知っている国として後世に伝え、世界で二度と核兵器が使われないように少しでも協力していきたいと思いました。



「広島が私に教えてくれたこと」

村上東中学校
かとうれいな
加藤玲凧さん

今まで戦争のことは社会の授業でしか触れたことがありませんでした。今回の広島派遣では、当時の人々の辛さや苦しさなどの思いや戦争の悲惨さを、実際に目で見て肌で感じたいと思い参加しました。実際に原爆ドームや平和記念資料館を見たことで、当時の人々への思いを知るだけでなく、戦争への怒りがこみ上げてきました。

私たち若者に課せられている課題は一人でも多くの人に広島で起きた事実を伝え続けることではないでしょうか。もう二度と戦争を繰り返さないために。



「離れないあの悲劇」

村上第一中学校
しやうじ
東海林ももさん

私達は始めに原爆の子の像へ行き、千羽鶴を奉納した。幾重にも折り重なり、びっしりと奉納されている千羽鶴からは平和への強い願いを感じ取ることができた。

次に平和記念資料館へ向かった。そこにあった様々な展示から言葉が出なくなるほどの衝撃を受けた。原爆が投下されたことを風化させてはいけない、語り継いでいかなければいけない、二度と戦争という過ちを犯すことが無い世界を作り上げていかなければいけない。という強い想いを抱くことができた。